

今知りたい、頑張る生産者の情報フリーペーパー

2025
Apr.

となりの農家さん

take
free

特集

スペインシャルインタビュウ

サカタのタネ 掛川総合研究センター

プロの生産者に

「魅せる」野菜作りの追求

掛川総合研究センター

渡辺 夢介



最新の品種の栽培展示

静岡県掛川市に株式会社サカタのタネの研究所である掛川総合研究センター（以下、掛川総研）がある。

ここでは、優れた品種を作り出すための育種（ブリーディング）や植物病理研究が進められている。また、野菜や花の最新品種が展示されている圃場があり、全国各地から毎年4000～5000人の生産者が来訪している。



静岡県掛川市にあるサカタのタネの掛川総合研究センター

掛川総研では一年中様々な品種の展示が行われている。今回

訪問した2月には、ここ掛川で10年以上かけて開発され、2023年9月に発売されたネギの新品種「冬扇シオン」をはじめとした様々な品種のネギやアスパラガス、トマト、キャベツ、トルコギキョウの栽培展示が行われていた。

この展示圃場で実際に栽培し、生産者の受け入れをしているのが掛川総研の栽培課であり、日々農業生産に向き合っているのが栽培課の野菜部門のリーダー渡辺夢介である。

野菜部門のリーダー

渡辺は中学時代からプランターで野菜を作るなど、家庭菜園が趣味であった。大学の農学部を経て、2013年に新卒でサカタのタネに入社。初めての配属先である北海道では4年間カボチャの育種に励み、「ブラックのジョー」の開発にも携わった。

その後、2017年に掛川総研の栽培課に配属され、今年で8年目となる。掛川に来た当初は、

それまでいた北海道とは品種も作物の生育環境も異なっていたため、見習いのように上司・先輩から栽培について一から教えもらった。

そして実際に手を動かして新しいことにチャレンジしながら、栽培スキルを磨き、3年前から野菜部門のリーダーとなり、野菜の展示圃場の責任者を担っている。

昨今の新しい取り組みの一つとして、アスパラガスの枠板式高畝栽培を導入するなど、現在も日々、精力的に栽培技術の習得に努めている。

「魅せる」野菜作り

展示圃場で栽培されている野菜は、どれも元気で見た目も美しく、揃って育っている。そのため、それぞれの品種ごとの特徴が分かりやすく表れている。実際に、ここに来た生産者は、こぞつてどうしてこんなふうに育てられるのかと熱心に聞かれるほどの出来だ。

しかし、一年中、どの品種でも常に「魅せる」野菜を作ることは容易ではない。ましてや、相手は本物を知るプロの生産者である。渡辺は、いつでも来ていただいたプロの生産者に胸を張って「魅せる」野菜を栽培し、展示しなければならぬという緊張感を常に抱えている。

魅せる野菜とは、品種本来の力を発揮させ、健全かつ生育が揃って、見た目も美しい、生産者や消費者にとって魅力的に映る野菜のことを指す。渡辺は、自社のリーダーが長い年月をかけて開発した品種に対



アスパラガスの枠板栽培

し、土壌の状態や水分管理、肥料の配分、さらには栽培スケジュールなど、あらゆる要素を最適化し、野菜作りに必要な環境や条件を整えている。展示圃場には雑草一本さえ生えていない。また、リーダーをはじめとした社内の研究開発部門と連携し、絶えず栽培方法の改善に取り組んでいる。こうした努力が実を結び、展示圃場の野菜は常に高い評価を受けている。まさに渡辺の情熱と努力が「魅せる」野菜作りを支えているのだ。



展示圃場のネギの生育状況を調査する渡辺

高機能液肥

近年、多くの生産者にとっての悩みの種が異常気象であり、もちろん渡辺も例外ではない。サカタのタネは、異常気象に対応できるような育種の研究を進めているものの、極端な気象現象によって、育苗がうまくいかなかったり、生育が停滞したりすることがある。たとえば、真夏に種を撒くプロックロー、キャベツなどの野菜は、40度前後の猛暑によって、芽が出ない、芽が出てても焼けてしまふ、徒長してしまうこともあった。

そんな時に渡辺が頼りにしているのが高機能液肥である。サカタのタネからは「サカタマモルシリーズ」として様々な商品が提供されており、安定した栽培をするために天候や生育ステージごとに多様な製品を使っている。実際、今回掛川総研を訪問した際も、展示されているすべての作物に定期的な

サカタマモルシリーズを使っていると紹介していただいた。

サカタマモルシリーズ



その中でも、異常気象などの影響で作物が弱っている時に効果を発揮しやすく、使いやすいのが「鉄力あくあF14」だと渡辺は言う。この製品は、サカタのタネと植物の鉄の専門知識を持つ愛知製鋼が共同で開発したもので、植物の生育に欠かせない微量要素を手軽に補給できる。特に、植物が吸収しにくい鉄を吸収しやすい「二価鉄」の形で供給するため、葉の色が濃くなり見た目も良くなるなど、即効性の



掛川総研で使用している
「鉄力あくあ F14」

ある効果が期待できる。

渡辺は通常の灌水や葉面散布に加え、葉の色が薄い時には濃度を少し濃くしたり、散布の頻度を上げたりして「魅せる」野菜作りに活用している。

高機能液肥は異常気象下での野菜作りに欠かせないアイテムであり、生産者に対して、品種の紹介だけでなく、効果的に高機能液肥を使う方法の紹介もしている。

たとえば、千葉県のネギ農家は、

異常気象で夏に株が腐ってしまった、様々な対策を試行錯誤する中で、鉄力あくあ F14 をはじめとする高機能液肥を使ってみたところ、目に見える効果が出て、その後常用するようになった。
このように高機能液肥を適切に活用してもらうことで全国各地の生産者の困りごとの解決に貢献している。

ブリーダーと営業の 橋渡し役

渡辺にとって、栽培課は訪問

してくれた生産者との直接の接点になるだけでなく、品種開発をしているブリーダーと、生産者との接点を持つ全国の営業担当者との間の橋渡し役という重要な役割でもあると考えている。

ブリーダーが長年かけて開発した品種を実際に栽培し、そこで身につけた栽培技術を直接または営業担当者を通して生産者に紹介することで品種の魅力を伝えるとともに、営業担当者から

上がってきた生産者のニーズをブリーダーに届けて新しい品種開発のきっかけを作る役割を担っている。

渡辺は、ブリーダーと営業の橋渡し役として、全国の生産者と接しながら「魅せる」野菜作りに日々奮闘している。

これからは渡辺は、栽培技術の開発に積極的に取り組み、全国を生産者と共に農業の未来を切り拓いていくことを目指している。渡辺の取り組みが、より多くの生産者に希望と可能性をもたらし、豊かな農業の未来を築いていくことを期待している。



掛川総研で栽培している
ネギとアスパラガス

掛川総合研究センタープロフィール

株式会社サカタのタネの全国に4つある研究所の一つで、静岡県掛川市にあります。主に、育種（ブリーディング）や植物病理の研究が行われています。さらには野菜や花の最新品種が展示されている圃場もあり、全国各地から毎年数多くの生産者が来訪しています。

鉄力あくあ® F14

愛知製鋼とサカタのタネが共同開発した高機能液肥。植物の生育に欠かせない微量元素を手軽に補給できます。特に吸収しにくい鉄は植物が吸収しやすい2価鉄の形で供給することができます。

3000〜5000倍に希釈して使用するので高コストパフォーマンス。微量元素欠乏症の緩和、根量増加・根を太くする、光合成・呼吸の代謝向上などの効果が期待できます。製品の詳細情報は以下をご覧ください。

「鉄力あくあ」は愛知製鋼の登録商標です



あしがき

必ずしも渡辺さんとはなりの「農家さん」ではないのかもしれませんが、しかし、取材を通じて、最高の野菜を作ろうと日々奮闘している姿は、「農家さん」と本質的には同じなのではないかと思いました。

そんな渡辺さんが、試行錯誤しながら身につけたノウハウを少しでも知っていただきたく、今回「となりの農家さん」として取り上げさせていただきました。みなさんの農業生産の参考になれば幸いです。

発行 愛知製鋼 0120-603-937

となりの農家さん制作委員会